

琵琶湖沿岸、西の湖および伊庭内湖におけるホンモロコの産卵状況

寺井章人

1. 目的

ホンモロコの産卵状況と産卵期間中の水位変動の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2地点)と周辺内湖(2地点)において産卵調査を過去から継続して実施しており、令和3年度についても同様に調査を行った。

2. 方法

琵琶湖沿岸(大津市小野、長浜市湖北町延勝寺)と周辺内湖(西の湖、伊庭内湖)の計4カ所において、湖岸距離約50~100mのヨシ・ヤナギ帯で、2021年3月中旬から7月中旬まで原則1回/週の頻度でホンモロコの産卵状況および、調査定点での水深(現場水深)を測定した。調査時の産卵状況および次回調査時の現場水深から、ふ化までの期間常に水中にあったと推察される卵を生存卵、常に水面上にあったと推察される卵を死亡卵、それ以外を不明卵として評価した。

3. 結果

産着卵は、3月下旬から6月下旬まで確認された(図1~4)。

産卵期間を通じた各調査地点の総産着卵数は、大津市小野が約14万粒、長浜市延勝寺が約1,045万粒、西の湖が約84万粒、伊庭内湖が約17万粒であった。

長浜市延勝寺では増水のタイミングで大量の産卵がみられたが、その後の水位低下に伴い、大半の卵が干出死亡した。水面付近に産卵を行うホンモロコシの特性上、産着卵は水位低下による干出の影響を受けやすく、産卵時期の急激な水位の低下はホンモロコシの再生産に大きく影響すると考えられることから、今後も産卵量と水位の関係は注視していく必要がある。

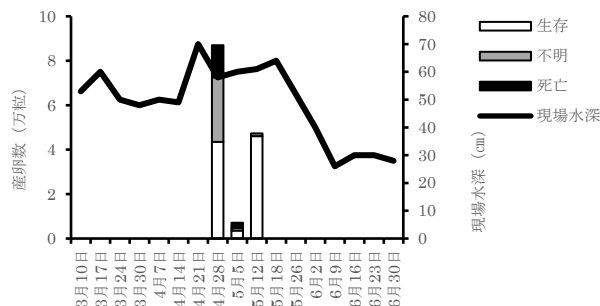


図1 大津市小野における産着卵数の推移

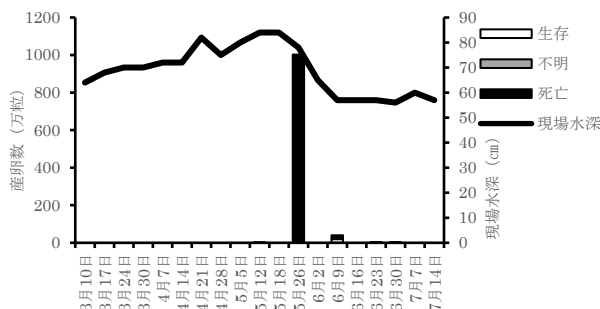


図2 長浜市延勝寺における産着卵数の推移

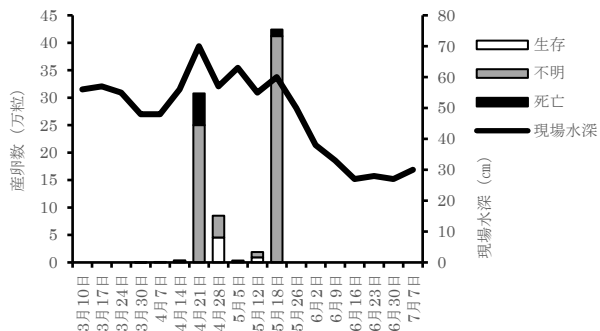


図3 西の湖における産着卵数の推移

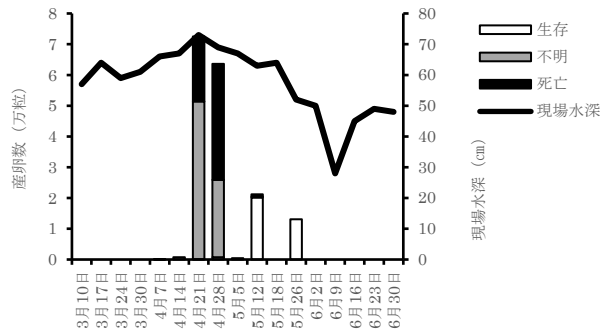


図4 伊庭内湖における産着卵数の推移